

花ごよみ No.102

## 白山のクロユリ

山口 良治

クロユリはユリ科の高山植物で別称エゾクロユリ（蝦夷黒百合）ともいう。分布は北海道、東北地方の月山・飯豊山、西限地は中部地方の白山です。白山・室堂付近には大量に群生しています。花期は6～8月。花は鐘状で茎先に1～数个、斜め下向きに付けます。色は暗紫褐色または黒紫色です。花に悪臭があり、英語では skunk lily（スカンクユリ）の別名があります。

写真は2019年7月に石徹白登山口から美濃禅定道コースで白山へ登山した時に室堂付近で撮影したものです。



古い話ですがクロユリに絡んで“黒百合の歌”という歌謡曲があります。

昭和28年発表、菊田一夫作詞、古関裕二作曲、織井茂子歌で松竹映画「君の名は」の主題曲です。

♪「黒百合は恋の花 愛する人に捧げれば  
二人はいつかは結び付く あ～あ～あ  
～・・・」

聞いたことありますでしょうか！



この歌詞はアイヌ民族には好きな人への想いを込めたクロユリをその人の近くにそっと置き相手がそのクロユリを手に入ればいつの日にか二人は結ばれる。という言い伝えがありそれを主題にしています。

## シダーローズ

中村 敏子

【科名】 マツ科

【学名】 *Cedrus deodara* (「deodara」は神の木という意味)

【属名】 ヒマラヤスギ属 別名「ヒマラヤシーダー」

【原産】 インドのヒマラヤ地方・アフガニスタン

【花期】 10～11月

【用途】 庭木、公園・街路樹、建築・土木・器具材等

雌雄同株、雌雄異花 (雄花も雌花も短

枝につく) の常緑針葉樹

美しい円錐形の樹形で、世界3大造園木のひとつ (あとは、アロウカリア・コウヤマキ) と言われています。樹高は40m～50m、時には60mにまで生長し、幹の直径は3mに達します。

たまたま 世田谷のぼろ市でなんとなく買いました。それがこれでした。

日本にもあるみたいです、ヒマラヤ杉を見つけて探してみてください。





# 藤の花

末石 五

今年は外出自粛の影響でせっかくの藤の花を觀賞出来なくなりました。  
私の故郷の福岡県八女市の「八女黒木大藤まつり」も中止になりましたが、せっかく咲いたのに勿体ないので写真だけでも見てもらいたいと思い写真を掲載したいと思います。





## キヌガサソウ

松尾 佳

キヌガサソウ(ユリ科) :

傘のように広がった葉の中心から長さ3.5-7cmの花茎を伸ばし、大きな花を1個つける。花の直径は6-7cm。

日本の固有種で本州、亜高山帯に分布。多雪地で雪が溜まる環境に多い。



キヌガサソウに出会ったのは雪倉岳から朝日岳へ向かう途中でした。もしかしたらそれまでも何度か出会っていたお花かもしれませんが、この時は長い距離を歩いていて疲れていたのか大きな葉と白いお花がすごく印象に残りました。

翌日には群生も発見し、得した気分になりました。



花ごよみ No.98

## コマクサ 駒草 ケシ科

堀井 栄

高さ5～15cm 花期7～8月  
多年草 分布北海道、本州（中部以北）

本州では日本海寄りの山に多い、凍結、融解によって砂礫が移動する構造土に多く生え、火山礫原にも生える。根茎は短く、地中深くにある。花びらは4枚で、外側2枚は基部が大きく膨らんで先半分が反り返り、コマクサの特徴ある花形を作っている。

普段、一人で歩いているので、花があっても、聞ける人もいないので、名前はいまだに一向にわからない。写真を撮って、後で調べて見るのだが、似ている花があってやはりわからない。さすが、コマクサだけは直ぐにおぼえることができた。



コマクサの大群落に出会ったのは草津の本白根山が最初だと思う。この群落は盗掘で一時激減してしまったのだが、地元の人たちの努力で復活した経緯があります。草津は、夏はハイク、冬はスキーと20年以上毎年訪れるなじみの地です。今は噴火で、立ち入ることができず、残念です。

また、昨夏の裏銀座縦走時に、野口五郎岳から蓮華岳への道沿いでのコマクサの多さにびっくりしました。他の植物がほとんど生えない砂礫地でコマクサだけが連なる稜線を歩いていると、この花の強さに感動を覚えます。





# シュンラン(春蘭:ラン科シンピジウム属)

高橋 美

・「シュンラン」とはまさに春に先駆けて里山の林床にひっそり咲く。つつましやかなその姿は大型ランの艶やかな色彩を持ちあわせず素朴なたたずまいで、逆に気にかかる。春先に足元の植物を見てゆったり歩くのも良いものである。

・シュンランの花全体の左右と上部に広がる黄緑の細長い(披針形) 3枚の花弁に見えるのは萼片である。2枚の側弁花が赤味をもつ蕊柱(ずいちゅう: 雄蕊雌蕊の合体形)を風雨から守るように上部を覆っている。草丈は高くても25cm前後だろう。

・三轟山の花は保護地にあつて踏まれる心配もないのか、伸び伸び咲く。奥多摩の春蘭はもう咲いているかなと出掛けた山行でみつけた株である。踏まれそうな登山道脇に花茎も葉も目いっぱい伸びなければ子孫を殖やせないとばかりに健気に咲くように見て取れた。バルブの株分けで増える。全体が緑っぽいので探すつもりがないと見逃してしまう。また盗掘される花もある。シラン(紫蘭)とそっくりの蒴果をつける。中に綿ぼこりのような糸屑をまとったような極小の種が莢からはじけ飛ぶが、蘭菌と共生しないと発芽しないらしい。私も庭のシランの種の発芽に成功したためしがない。



蒴果

2013/3/20 奥多摩で

シンピジウムに属する花は塩漬けにして桜湯と同様に飲んだり、茹でて酢のものにもできる。食したことはない。

私と同じ歳の友人と夏山山行の相談中に、彼女の庭ではシュンランが毎年多く咲くと聞いて驚いた。次の会議に5-6株植え付けた鉢植えを持って来てくださった。そのシュンランは翌年もその次の年も花を付けなかった。3年後の春に花が咲いた。しかし彼女はその半年前に「白血病」で亡くなっていた。私には大切にしたい花である。(了)



三轟山 2019.3.21



能岳 2014.4.13